

大分県議会議長と大分市議会議長に 100 周年事業への協力を要請

昼間は春の気配が感じられるようになった 3 月 12 日、石川公一会長と三浦洋一会長代行、野々下俊昭 100 周年事業実行委員長、柴田宏二常務理事ら四極会役員と足立一馬大分大学監事、経済学部の渡邊博子教授、吉野勉事務長が議会開会中の大分県議会議長室と大分市議会議長室を訪問しました。両議長には本会議や委員会の合間を縫って時間を取っていただきました。

[大分県議会議長室で]

県庁舎新館 3 階の県議会議長室では、麻生栄作議長、土居昌弘副議長、木田昇県議、後藤慎太郎県議の 4 人の同窓県議が迎えてくれました。また県庁支部の阿部万寿夫 商工観光労働部審議監、中津留康夫 大分県自治人材センター課長も同席されました。

石川会長から募金の進捗状況、野々下実行委員長から記念事業の概要について説明した上で、今後の募金推進について協力を依頼しました。

麻生議長からは、県民に評価され、子どもを進学させたいと選ばれる経済学部にするために力を尽くしたい、そのためには県民や自治体にインパクトを与える 100 周年事業になるよう一緒に盛り上げたいとの心強い言葉をいただきました。

その後の話し合いで、地域社会のニーズに添った教育や大分の歴史に学ぶ教育・研究の必要性について意見が交わされました。大友宗麟の時代に大分で活躍したアルメイダは西洋医療をもたらしただけでなく貿易商でもあったこと、大分県出身で終戦時の外務大臣重光葵のミズーリ号でのマッカーサーとのエピソード等、大分の偉人について話題は尽きませんでした。





[大分市議会議長室で]

大分市議会では議会棟 2 階に野尻哲雄市議会議長を訪問しました。野尻議長は、全国市議会議長会会長として多忙な日々を送っておられます。

石川会長から 100 周年事業を物心両面で後輩たちに何かを遺す充実したものにするために進めてきた準備状況と募金の状況について説明し、今後の協力をお願いしました。

野尻議長も、事業の意義は十分に理解しており、できることは協力を惜しまない、法人募金についても事務局と連携して進めたいと 100 周年事業の推進に向けた意欲を語られました。

また、新型コロナウイルスの影響が観光関連産業以外にも広がっていく可能性について市議会としても危惧していると、市政が当面する課題が話題になりました。





衛藤晟一内閣府特命担当大臣に加えて、麻生栄作大分県議会議長・土居昌弘副議長ほか2名の県議会議員、野尻哲雄大分市議会議長ら政界で活躍する四極会員の心強い応援に感謝します。